



と畜検査で発見される病気

豚編 No6 豚赤痢



☆ どんな病気なの？

豚赤痢の原因は豚赤痢菌（ブラキスピラ・ハイオディセンテリ）です。この菌はヒトの赤痢とは違う菌であり、ヒトには感染しません。発病豚や保菌豚の便を直接摂取することにより感染し、主な症状は悪臭ある粘血下痢便の排泄です。死亡率は高くありませんが、食欲が減退し、増体の低下を招きます。主に大腸に病変が局限することが特徴であり、粘膜面（内側）が出血や充血のために赤色を呈します。

☆ 豚赤痢菌について

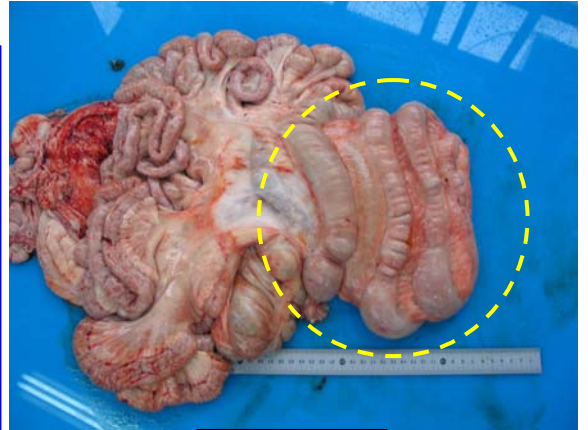
長さ7~10μm、幅0.3~0.4μmのらせん状菌であり、無酸素状態でのみ発育します。

☆ 診断

症状や解剖所見から推察することができますが、確定診断には腸内容物から豚赤痢菌を検出しなければなりません。検査材料として新鮮な大腸粘膜または糞便が必要です。下痢の類症鑑別としては他に増殖性腸炎、サルモネラ症などがあります。

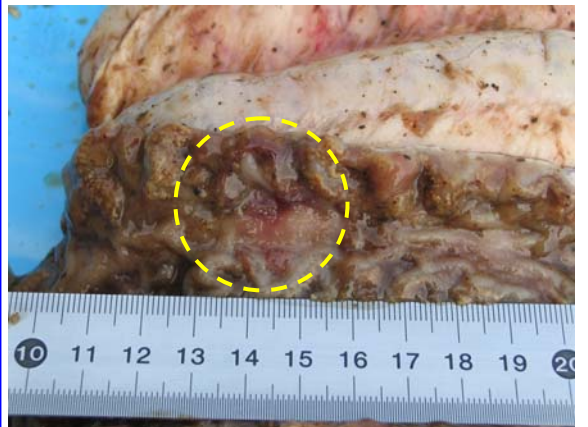
☆ 豚赤痢の病理組織所見

組織学的病変も大腸に局限し、充血、水腫、白血球浸潤により著しく肥大します。時間が経過すると、多量の線維素、粘液、細胞残屑が粘膜表面などに蓄積します。



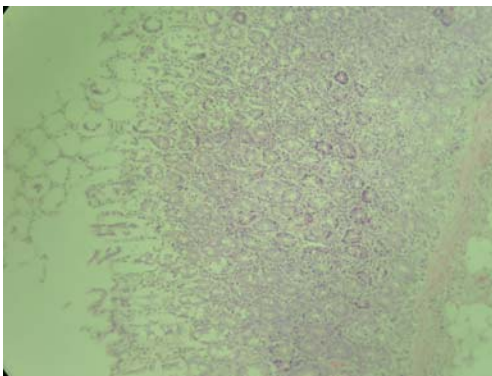
赤痢の全腸

大腸の漿膜面（黄色円）が赤色を呈している。



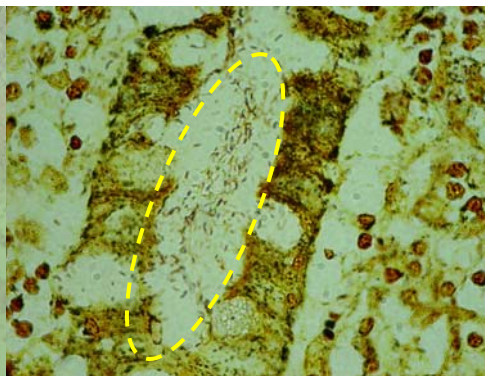
赤痢の大腸（粘膜面）

粘膜面は軽度の出血（黄色円）及び肥厚がみられる。



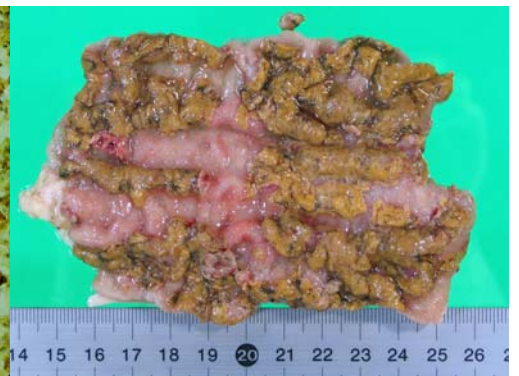
赤痢の腸（組織写真）

円形や卵円形の管腔が増殖している。



大腸にみられた赤痢菌

らせん型小桿菌が多数みられる。



増殖性腸炎の腸

粘膜面に偽膜が確認できる。